

第1回たかいし学校創生基本構想検討協議会会議録

開会及び閉会の年月日時

開会	令和8年5月18日 午後3時00分
閉会	令和8年5月18日 午後5時15分

会議に出席した者の職及び氏名

委員	高石市立高石小学校 PTA 副会長：朝倉 啓仁 武庫川女子大学建築学部 教授：中江 哲 和歌山大学教育学部 教授：二宮 衆一 高石市立取石中学校 PTA 会長：東野 真人 関西外国語大学短期大学部 教授：榊田 千佳 高石市立羽衣小学校 校長：松井 洋美 高石市立高石中学校 校長：吉田 種司
事務局	教 育 長 ：山本 圭作 教 育 部 長 ：石坂 秀樹 教育部理事兼次長：石栗 雅彦 教 育 部 次 長 ：山崎 陽子 教育総務課長代理：水谷 亘 学校教育課課長代理：坂本 修仁 教育総務課係長：大畠 翼 有限責任監査法人トーマツ

議題及び議事の要旨

1. 開会
2. 委員の委嘱及び任命
3. 教育長挨拶
4. 委員及び出席者自己紹介
5. 会長及び副会長の選出

－	会長は二宮委員、副会長は中江委員で選出。
---	----------------------

6. 議題

(1) 会議の傍聴について

(2) 令和7年度中間報告について

・令和7年度調査概要について

事務局	資料説明
-----	------

・先進事例調査報告について

事務局	資料説明
A 委員	学校の規模感に関し、大きいからできる、小さいからできるというものがあると思う。高石市の学校の規模に似ている学校を視察されていると思うが、規模感で何か感じたことはあるか。
事務局	高石市は小学校1万数千㎡ 中学校2万㎡程度であり、校地面積からいうと標準的である。建物の規模感としては早来学園がコンパクトであり、高石市の学校の参考になる。一方で大きな学校も設備等で参考になる。今後、学校規模を整理しながら、どういった施設構成がよいのか検討したい。担当としては図書館を中心に交流機能を持たせたい。放課後活動も踏まえながら検討していきたい。
B 委員	20箇所も回れて、とても良いと感じた。早来学園の周辺に他の小学校や中学校はあるのか。町に一校だけなのか。
事務局	町の中には、他の学校もある。
B 委員	ということは、町の中で、従来型の学校に行っている子どもと新しい学校に行っている子どもがいるということか。
事務局	平成30年に地震で学校が倒壊したことをきっかけに、子どもも含めた地域住民と検討してきたそうである。周辺の学校はどうするかについても、考えていく必要があると聞いている。
B 委員	学校の中身を考えることも必要であるが、私立の学校と高石市の他の学校で良い教育が受けられるようにする必要があると感じた。
C 委員	校長会で2回、泉大津市立小津中学校へ視察に行ったことがある。職員室のフリーアドレス、オープンスペース、地域活動の拠点等、先進事例と同じような取組みをされており、おもしろいと感じた。職員室では同じ席に座るのはだめで、席を移っていくそうであり、他の学年の先生との交流ができるそうだ。こうしたことが取り組めるとよい。
D 委員	先進事例は、どれも特色があって、魅力的であり、今の子どもはいいなと思った。新しい方がいいなという意見もあれば、昔の方がいいという意見あると思う。どうやって話を進められたのか。

事務局	教育委員会事務局にも訪問しており、合意形成について聞いた。大人だけでなく子どもにも「どのような学校がいいか」と聞いていた事例もあり、高石市もそうしようと思っている。意見を聞いた結果、学年やステージごとに施設を変える事例もあった。高石市ではワークショップで子どもを含めた市民や教職員の意見を聞き、丁寧に説明していく。また、発信方法も工夫していきたい。note も開設しているので、ぜひそちらもご覧いただけるとありがたい。
-----	---

・令和 7 年度中間報告資料について

事務局、コンサルタント	資料説明
A 委員	p92 と p93 の違いは何か。
事務局	従来型と長寿命化型。p92 は築 50 年で改築するという従来型で試算している。仮に 2031 年からスタートする場合、既に築 50 年のものが 75%以上あるため、それらは 2031 年から 10 年間で改築する。比較的新しいものは 2061 年から改築する。改築から 20 年経過したときに大規模改造を行う。グラフでは緑色で示している。p93 は築 50 年で長寿命化改修、築 80 年で長寿命化型という考え方で試算したものである。2031 年から 10 年間で改築が必要なものは、2031 年から始まる青色のグラフで示している。築 80 年未満の場合は長寿命化改修を行い、2051 年から改築を行う。なお、これらは今ある学校施設の全部を改築・改修するようになるというシミュレーションである。
A 委員	p93 のグラフの紫色部分は長寿命化改修と理解した。
事務局	長寿命化型では、長寿命化改修をしても 80 年経ったら改築をする。そのため 40 年間の総額は、p92 の従来型より p93 の長寿命化型の方が高くなるという試算になっている。令和 2 年度の学校施設等個別施設計画では、長寿命化改修が p93 のグラフより 10 年前に来ており、改築の間隔が開いていたが、遅れているため、p93 のような形になっている。
会長	p96 以降で「必要な校舎規模」を算出しているが、今後どのように活用されるのか。
事務局	文部科学省で学校施設の必要面積の算定基準があり、国費対象の面積となる。今後確認が必要だが、学校によっては必要面積に達していない校舎もあり、その時その時の学習形態などを踏まえて検討していくのではないかと推察している。細かな点になるが、これらに支援学級の加算率が入ったり、オープンスペースの面積が加算されたりするので、

	これからの学習形態を検討し進めていきたい。
会長	これ以上の面積のものを建てようとなると基本は市の持ち出しとなると理解した。p92 と p93 のシミュレーションは国費を考慮していないのか。
事務局	過去に作った校舎をそのまま改築する前提での試算であるため、国費は考慮していない。
A 委員	校地面積についても学級数の上限があるのか。
事務局	踏み込んだ検討はこれからだが、先進事例調査において運動場が狭いので、近くで確保したという事例はある。
A 委員	p104 と p105 について、小学校は 6 学年で中学は 3 学年のため、単純に半分になるのではないか。
事務局	今回は過去の減少割合を見ながら、コーホート変化率を用いて計算している。令和 8 年の実績を踏まえて推計は見直ししようとしている。
A 委員	令和 7 年で見ると生徒数は半分になっているが、変化率によると、あわないということか。
事務局	あわないのではなくて、コーホート変化率の計算上はそうなるというものである。
A 委員	令和 30 年の生徒数が 874 は多いと感じるが、計算上はそうなるものだとして理解した。
事務局	今後も人口推計については説明させていただく。
B 委員	少ない人数できめ細かく指導できるのは理想的であり、そういった夢に向かっていけたらと思う。気になったのは、アンケートにおける「学力」の使い方である。p119「これからの学校で大切にしてほしいこと」について、市民や教職員は、集団の中での主体性や協調性という学校ならではのものを大事にしたいという回答が多い。一方で、子どもは「確かな学力」が最多である。また、p166 市民や職員向けの「特色のある教育（受けさせたい・取り組みたい）」では、「学力保障」「ICT を活用した教育」「英語教育」「探求的な学習」が並列になっている。「学力」は何をイメージしているのか。先程の先進事例で紹介されたような英語やプログラミングといったこれから必要となるものか。集団での協調性等子どもの内面をしっかりと耕してほしいという意味なのか。 高石市の説明にあった、すべての子どもが安心安全に学校で過ごせることを大事にしていくのであれば、学力の意味を明確にしていく必要があるのではないか。高石の子どもたちにどのような力をつけさせていくのか、学力は根本になってくると思う。ぜひ子どもたちの意見を大事にしてほしい。また、今後進める中でそのあたりを整理して欲し

	い。
事務局	基本構想の策定において、子どもたちにどのような力をつけたいか、子どもたちに学ぶ力をどうつけていきたいか、検討している最中である。本日は説明が中心だが、第 2 回検討協議会から皆様にご意見いただきたい。それぞれ学力のイメージが違うこともあるだろう。ご意見を集約させていただきながら基本構想の策定に向けて進めていきたい。
B 委員	p166 は複数回答であり、「これとこれとやっぱり学力」と選んだ結果、両方の回答が混ざっているということか。
事務局	3 項目選択することになっている。
B 委員	探求と学力が並んでいるのはどういうことかと思った。
A 委員	p 147 以降の「これからの学校にあったらいいなと思うもの」に関し、「心が落ち着く環境」とはどういうものか。
事務局	個人個人でイメージが異なるものとする。心が落ち着く環境については、視察先事例においても、様々なものがある。川崎市の小学校には低学年用にかまぐらのようなスペースを設けている。また、高野山学びの杜には小上がりの休息スペース、早来学園には広々としたダイナースペースがある。
A 委員	小学校 1 年生から 3 年生の回答で突出してトップとなっている「心が落ち着く」とはどのようなものか。大人が思うものと違うのではないか。PTA から、小さい子どもを見て必要と感ずることはあるか。
D 委員	「心が落ち着く環境」が高いのと同時に、(p 149 では)「たくさんの人数でいっしょに給食が食べられるランチルーム」の希望も高い。イメージできないのではないか。
A 委員	「たくさんの人数でいっしょに給食が食べられる」とは、普段の教室とは別にランチルームがあるとよいということか。
事務局	学校によっては、教室とは別にランチルームがある学校もある。子どもとしては「広いところでごはんを食べたい」という希望があるのではないか。想像になるが、コロナ禍ではパーティションを配り黙食を行っていたこともあり、わいわい食べたいと思っているのではないか。 「心が落ち着く環境」は、子どもから大人まで、すべてでトップであった。ワークショップでは環境についても大事に聞いてみたい。
B 委員	p 136 以降の「行きたい、楽しいとおもえる学校」において、「自分の興味があることを勉強したい」という子どもの意見も多い。個別最適とやらなければいけないことの兼ね合いは難しい。一人ひとりで落ち着き方は異なると思うが、興味があることややりたいことができると落ち着くというのが子どもにあるのではないか。教職員が思うような、

	発達段階に応じた落ち着きとは異なるのではないか。アンケート結果の関連を見ることはできないか。
事務局	アンケートはクロス集計も行っているため、確認したい。

・たかいし学校創生基本構想の方向性案について

事務局	資料説明
A 委員	早来学園において、図書館を地域の方が使う際、セキュリティはスマートフォンか何かを使うのか。
事務局	顔認証のシステムである。アトリエとキッチンは授業時間と放課後で使い分けている。アリーナもそうである。視察先事例では早来学園のみ。高野山学びの杜は町民の顔を教育委員会が知っているからできる部分もあると聞いた。
A 委員	「まちを元気にする学校」で ICT を使い上手くいくものがあれば話題にもなるだろう。また教えて欲しい。
事務局	コワーキングスペースの視察も予定しており、他事例も調査する。
B 委員	コンセプトの「まちを元気にする学校」に関し、説明を聞くと「子どもも大人もみんなが元気になる」とわかった。説明がなければ、「まち」とは何かと思う。学校教育の側からすると違和感がある。コンセプト案だけ見るとわからない。
事務局	「まち」とは一体何か。学校は子どもが中心に据えて、それを囲み教職員、保護者、地域の方がいるイメージであるが、第 2 回以降でコンセプト案についてもご意見いただきたい。

(3) その他

・今後のスケジュール ワークショップスケジュール及び概要について

事務局	8 月下旬から 11 月中旬で開催する。詳しい日程は次回説明する。
-----	-----------------------------------

7. 教育部長挨拶

8. 閉会

以上